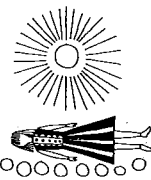


# 『1Q84』の「色即是空」と「空即是色」

—河合俊雄『村上春樹の「物語」夢テキストとして読み解く』

大澤 真幸



本書を、一言で性格づけるならば、『1Q84』を中心とする村上春樹の小説を夢テキストと見なして、ユング心理学の手法で解釈した著作ということになるだろう。しかし、本書の魅力は、こうした要約には還元できないところにある。

第一に、『1Q84』が解釈の中心に置かれてはいるが、本書には、短編を含む多くの村上作品へのかなり立ち入った考察が含まれている。『1Q84』は、登場人物たちの過去や背景が詳述される等、村上作品としては例外的なものに見える。しかし、本書は、主要な村上作品を縦横無尽に参照しつつ、それらが『1Q84』へと収束していく必然性を論証しており、その手さばきは作家論として見事というほかない。

第二に、本書には、歴史社会論としてのおもしろさがある。たとえば、本書の解釈によれば、夏目漱石がブレモダンから近代への移行を主題としたのに対して、村上春樹の作品はポストモダンな意識を反映している。ポストモダンへの脱皮は、しかし、ブレモダンへの独特の短絡を、ブレモダンへの否定的回帰を伴うことになる。ブレモダンな世界を支配した、「超越的なもの」、感覚を超えた「あちらの世界」が、失われたものとして、あるいは邪悪なものとして言及されることに

なるのだ。『1Q84』の「リトル・ピープル」は、まさにそのような意味でのブレモダンの領域に属している。

そして第三に——これが最も重要な論点だが——、本書が行っているのは、『1Q84』等の村上の小説の筋や登場人物を、ユング派の図式に対応させるスタティックな作業とは違う。本書の読解によれば、確かに、村上作品はユング派の図式と対応しているのだが、そこに孕まれているダイナミズム、それが目指している運動の方向が、ユングの図式とは反対になっている。村上作品は、ユング派の図式と、ねじれて対応しているのである。その意義は大きい。ユング派の図式に写像するだけならば、村上の小説を読まなくても、ユングの理論を知ればよいということになるが、両者の孕む運動の方向に互いに反転しあう関係があることが示されることで、今度は、村上作品がユング派の理論に対して、批評的な価値を帯びるようになるのだ。『1Q84』を媒介にして、ユング派の理論の見えていなかった可能性が発掘されている。

この点を最もよく示しているのが、『1Q84』の主要登場人物の布置を、ユングの「結婚の四位一体性」の概念と対応づける論脈である。結婚の四位一体性とは、意識的な男女はない——本書が示すところによると、聖なる関係を通過することで、現実と超越の両方が特殊なやり方で肯定されるのだ。現実に対しては、こうした媒介がなければ両立できない矛盾した態度が共存する。一方では、現実それ自体が一種の仮構だとする相対化がなされ、他方では、その現実を「信じる」というコミットメントが引き出されるのである。

だから、本書で『1Q84』は壮大なメデイテーションに喩えられる。『1Q84』の三巻が描き出す過程は、仏教でいう「色即是空」（現実→超越という往相）と「空即是色」（超越→現実という還相）に対応している。本書は、現代における物語に、このようなメデイテーションを引き起こす触媒としての機能を——ブレモダンな社会では儀式が果たしていた機能を——見出しているのである。村上春樹論として、そしてユング派の心理学の書として、そして何よりも現代を生きる者の哲学の書として、本書は傑出してゐる。

（おおさわ・まさち 理論社会学者）

河合俊雄『村上春樹の「物語」夢テキストとして読み解く』  
330861-4 8月31日発売

330861-4 8月31日発売

# ケトル

最高に無駄が詰まった  
クンテナーマガジン

<http://www.ohatabooks.com/qjkettle/>

毎巻毎月15日発売 900円+税 木田出版

好評発売中